

ごあいさつ



ここに呉信用金庫の第86期(平成22年度)業務の状況を取りまとめましたので、ご高覧いただき、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

初めに、このたびの東日本大震災により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。これからの復興には、たいへんな時間と体力、資力を要すると思われませんが、英知を集め新しい理想的なふるさとに創り直す、それを国民全員が応援し、また、それが日本各地のふるさと新生につながっていくことになれば素晴らしいことです。

さて、呉信用金庫の平成22年度の業績については、お客様からお預かりする預金、預り資産(国債、投信、保険)が順調だった反面、融資が減少し、不良債権(回収に問題のある融資など)は高止まるといった低迷状況を改善・脱却するには至りませんでした。それでも、当期純利益は目標とした10億円を確保し、自己資本を充実させました。また、不良債権がやや多目なのは地域密着を経営理念とする立場上やむを得ない面もあること、不良債権に対する保全は十分なされていることについてもご確認願いたいと存じます。

とはいえ、融資を増やし、不良債権を減らすことは、引続き呉信用金庫の大きな経営課題ですが、それらは地域経済の活性化があってはじめて達成されるものと考えています。そして、地域経済の活性化は、つまるところ地域の中小企業、家計における仕事をふやし、仕事をつくることですから、呉信用金庫も地域の「仕事ふやし、仕事づくり」の支援を経営目標に掲げて取組んでおります。特にビジネスニーズ情報の提供、マッチングの成功を増やすことや中小企業、家計のコンサルティング機能を向上させることにも積極的に取組んでまいります。また、滞在型観光の推進として、空家、空店舗を活用した宿泊施設、ギャラリーの運営を手掛けたり、ご当地グルメ「呉細うどん」普及の応援にも力を入れております。

今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年7月

理事長

大年健二